

取扱説明書

Fingerprint Application Suite V4.5

本製品をご使用になる前に、本書をよくお読みください。
また、お手元に置き、いつでも参照できるようにしておいてください。



目次

目次.....	2
製品紹介.....	3
ユーザーデータファイル.....	3
システム要件.....	4
セットアップ方法.....	4
インストール方法.....	4
アンインストール方法.....	11
使用説明.....	14
はじめに.....	14
システム設定.....	15
指紋管理.....	16
一般設定.....	17
コンピューター保護管理.....	18
ID／パスワード管理.....	19
アプリケーション保護管理.....	20
バックアップ.....	23
復元.....	24
ファイル保護.....	29
ファイルの暗号化.....	29
ファイルの復号化.....	31
暗号化ファイルの編集.....	32
ログイン保護.....	32
ロック保護.....	33
スクリーンセーバー保護.....	33
スクリーンセーバー保護.....	34
アプリケーションの保護.....	35
保護ファイルの検索.....	36
タスクトレイ設定.....	37
使用上の注意及び Q&A	38

製品紹介

この度は、本指紋認証アプリケーションをご使用いただき、まことにありがとうございます。近年、コンピューターを使用する機会が増え、また、コンピューター内に重要データを保存する事が多くなり、セキュリティ上の問題に頭を痛める事も多くなりました。現在、数多くのファイル保護方法がありますが、その中でも、「指紋認証」は、お客様（ユーザー）のファイル及びコンピューターを最もご満足いただける形で保護する方法です。本製品を利用し、「指紋」の特異性や利便性を利用する事で、ユーザー個人データを安全に保護していただけます。

ユーザーの重要データは「指紋」及び指紋により生成された「シークレットキー」によって保護されます。「シークレットキー」は24組の数字からなるもので、指紋登録完了後、システムが自動的に「シークレットキー」を生成し、ファイルを保護します。「シークレットキー」はユーザーデータフォルダ内を安全に保ち、ユーザーデータフォルダ内で暗号化規制やファイル保護を行います。

コンピューターは人々に便利な生活をもたらします。我々は本製品を使用することでユーザーがより安心してコンピューターを使用していただければと願っております。

ユーザーデータファイル

ソフトウェアをインストールし、指紋登録完了後、“ユーザーデータフォルダ”を生成します。ユーザーフォルダには指紋特徴データ、シークレットキー、アプリケーション保護の設定データが保存されます。

現在のユーザーデータファイルは必ずバックアップしてください。インストールするたびに新しいシークレットキーとユーザーデータファイル（詳しくは“セットアップ方法”を参照して下さい）が生成される為、もし、以前のユーザーデータファイルを復元することができなかった場合、以前暗号化したファイルを復号化できなくなります。復元処理は新しいシークレットキーで行う事はできません。2種類のシークレットキーで保護されている為、復元には2種類のシークレットキーが必要になります。

注意

本ソフトウェアはアカウントパスワードを安全に使用していただき、保護するもので、アカウントパスワードが盗用された時はデータへアクセスされる可能性があります。

システム要件

ハードウェア：USB インターフェイスを搭載したコンピューター（DOS/V, Mac）

OS：Microsoft Windows XP・Windows 2000（推奨）

CPU：Pentium III 700 MHz 以上の CPU（推奨）

メモリ：128MB 以上メモリ（推奨）

ブラウザ：Internet Explorer 5.0 以上のブラウザ（推奨）

ディスプレイ：VGA 解像度 800x600 以上

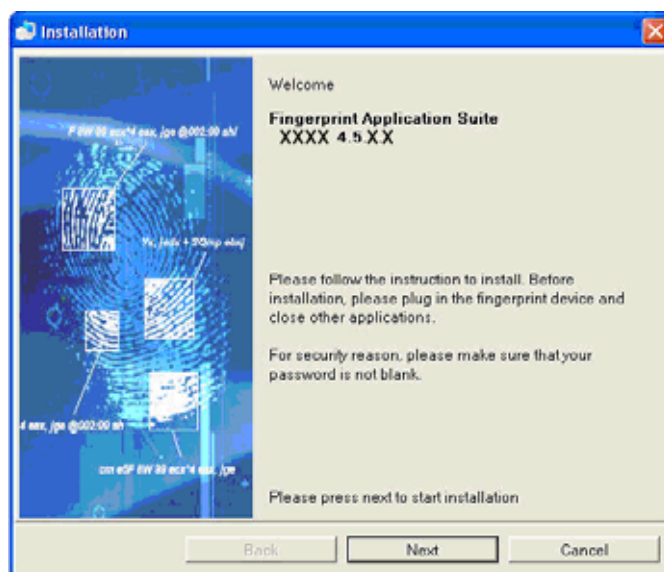
（推奨：1024x768・スモールフォント・トゥルーカラー）

セットアップ方法

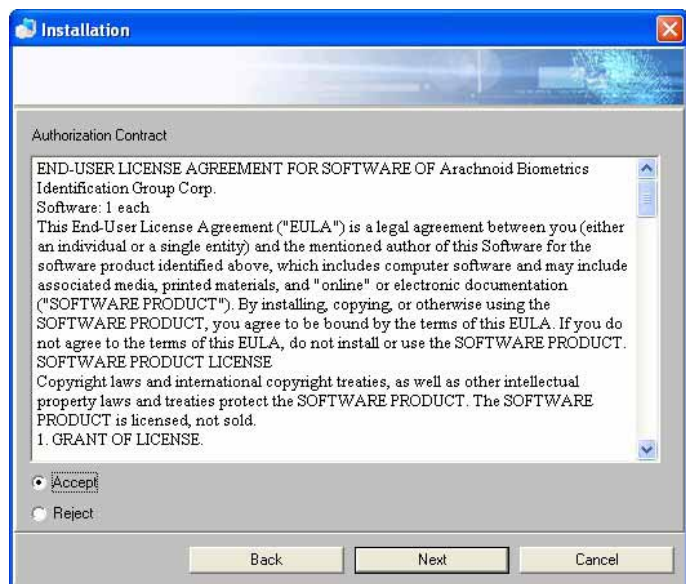
インストール方法

まず、指紋認証デバイスを USB に接続します。セキュリティ向上の爲、インストール前に御使用中のコンピューターのパスワードが設定されていることをご確認ください。

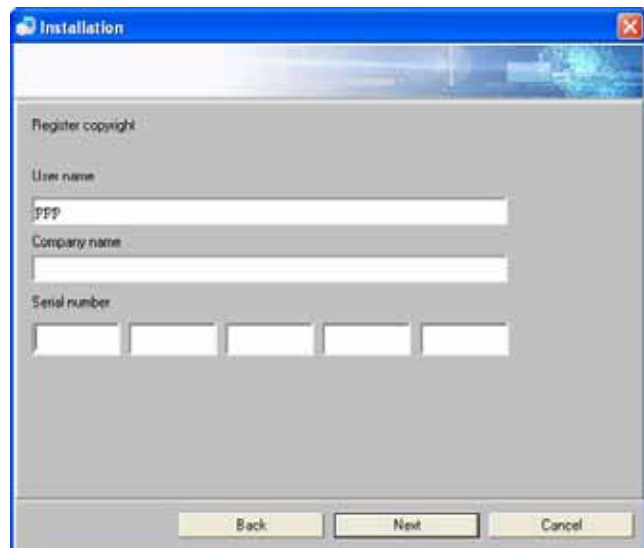
1. 指紋デバイスによる付属の CD をコンピュータのディスクに挿入すると、自動的にインストールされます。（インストールされない場合は CD-ROM 内の SETUP.EXE を実行してください。）インストールし続ける場合に、「次へ」をクリックして；インストールをキャンセルする場合に、「キャンセル」をクリックしてください。（図面にある XXXXX は製品の番号を示す）



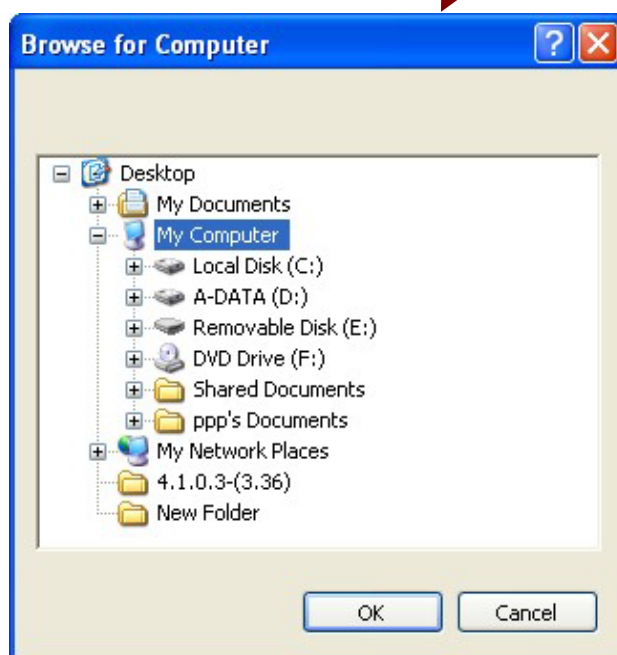
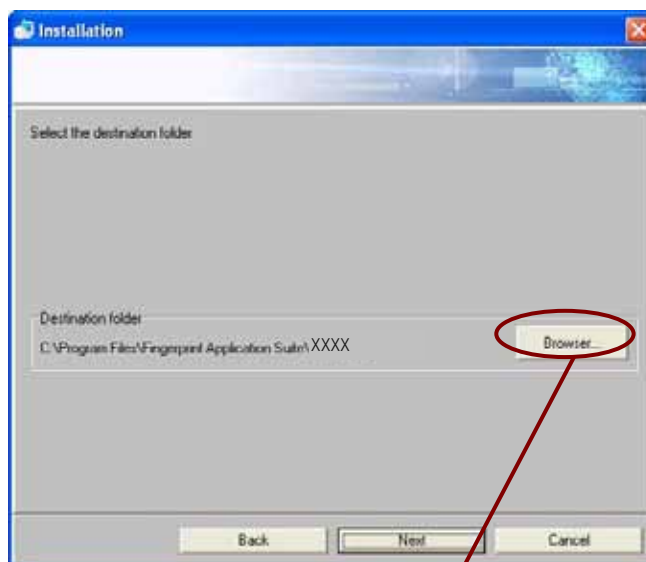
2. 使用許諾契約書が表示されますので、使用許諾契約書を読んで下さい。インストールを続ける場合は[同意する]を選択して[次へ]をクリックします。



3. ユーザー名・会社名・シリアルナンバーを入力して[次へ]をクリックして下さい。

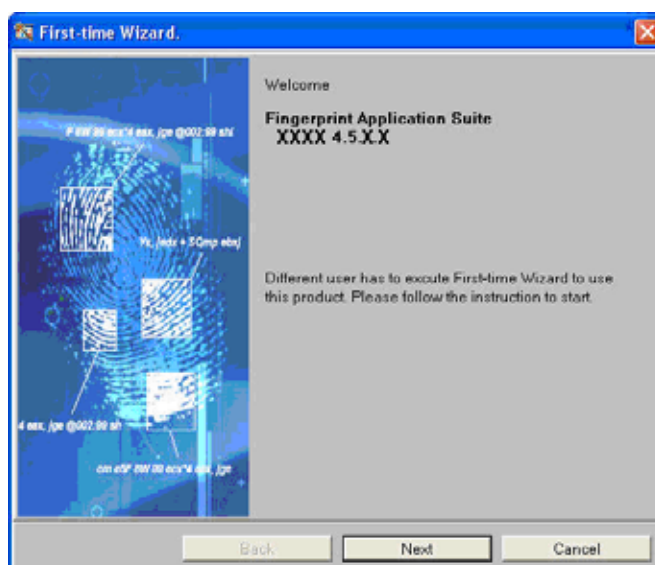


4. インストール先のフォルダを決定します。
通常インストールの場合には[次へ]をクリックしてください。（インストール先のフォルダを変更する場合は[参照]をクリックしてインストール先のフォルダを設定してください。設定後[次へ]をクリックして下さい）



5. インストールが終了すると初回設定ウィザードの画面が表示されます

[次へ]をクリックして初回設定ウィザードを開始します

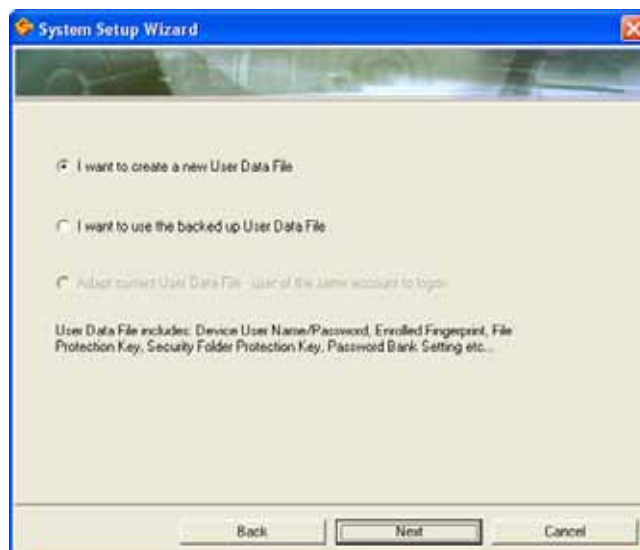


注意

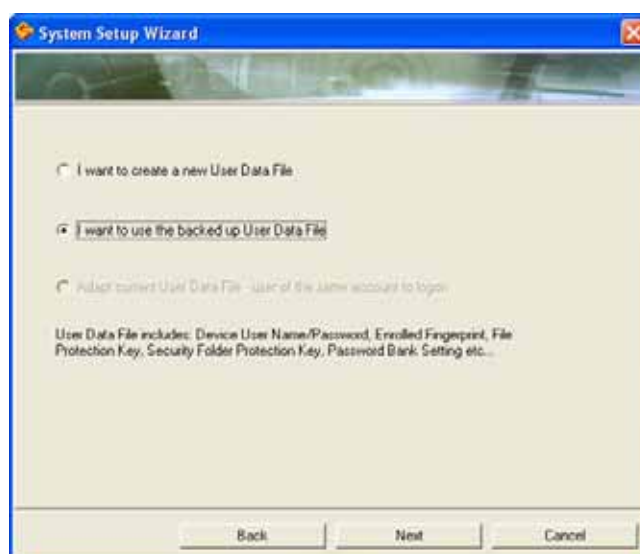
異なっているアカウントを有するユーザーはそれぞれ“初回設定ウィザード”を実行した後、本製品の全機能を使用できる。

6. 初回設定ウィザードには、ユーザーによって2種類の設定があります。

- 初めてお使いの方は、[新規ユーザーデータを作成—新規ユーザー]を選択して[次へ]をクリックしてください。



- 以前御使用の方でバックアップデータを使用する場合は[以前バックアップしたユーザーデータを使用します。—バックアップ位置は登録済みです。]を選択して[次へ]をクリックしてください。



7. 使用しているコンピュータのパスワードを入力し、“パスワードの確認”に再度コンピュータのパスワードを入力してください。(セキュリティ確保の爲、コンピュータのパスワードが設定されている事を確認してください。)パスワードが一致しない場合、指紋登録を行うことができません。



8. 以下は [新規ユーザーデータを作成—新規ユーザー] の操作例です。青く点滅している指を選択し、指紋登録を行います。指紋登録は 10 本の指すべて連続して行うことができます。

ユーザーは必ず自分の指紋データを登録してください。登録した指紋は本ソフトウェアを使用する時にも必要となります。また、“システム設定”から“指紋の再設定/削除/新規設定”を行うことができます。(詳しくは“システム設定”を参照して下さい)



9. シークレットキー登録した指紋及びファイルを保護するためにシークレットキーを設定します。（詳しくは“製品案内”を参照して下さい）

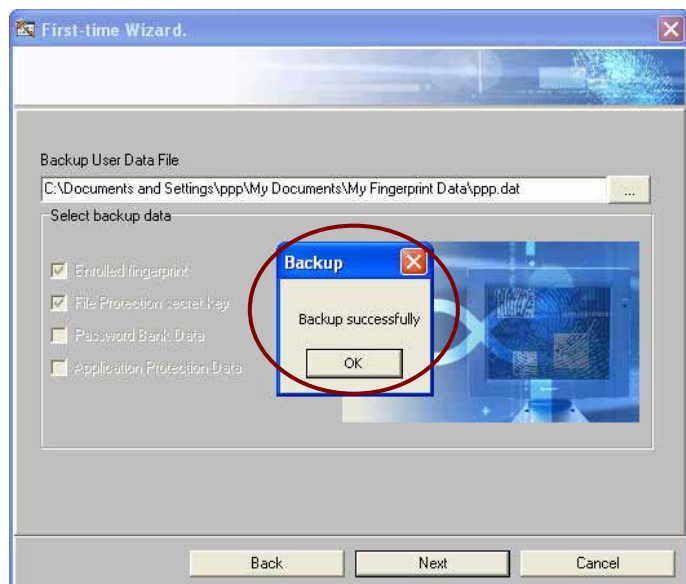
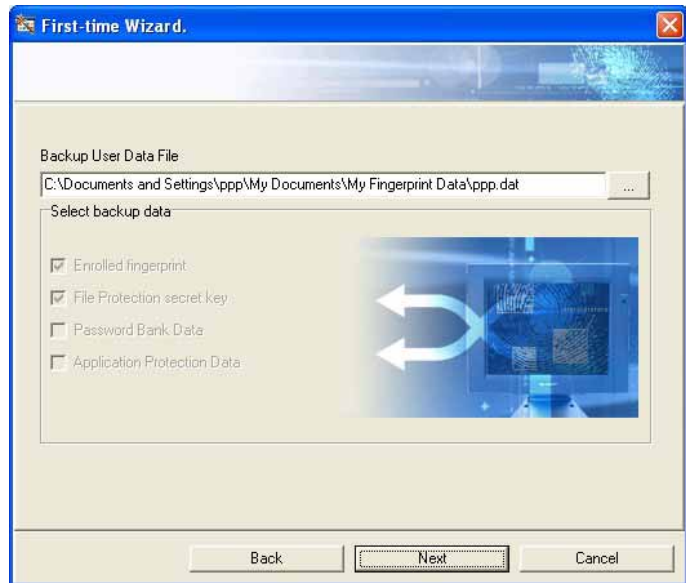
ファイルのバックアップ先を選択します。通常は(C:\Documents and Settings\Administrator\My Documents\My Fingerprint)中に*.dat ファイルとして保存されます（*はユーザー設定名称）ので、通常設定でよければ[次へ]をクリックしてください。

任意のフォルダへ設定したい場合は[参照]をクリックして、保存先を選択することができます。保存先を選択したら、[次へ]をクリックしてください。

“バックアップ成功”が表示されたら、[OK]をクリックしてください。

もし、バックアップファイルと同じ名前のファイルが存在している場合は、“*は既に存在します。上書きしますか？”（*は上で設定したシークレットキーファイル）と表示されるので、上書きする場合は[はい]をクリックしてください。

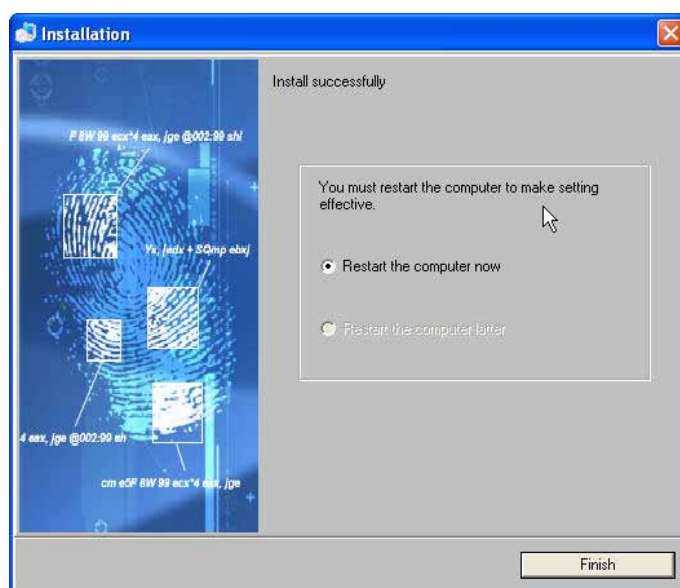
バックアップユーザデータファイルの用意：再インストールを行う時、バックアップの復元を行う場合は、再度指紋登録をしなくても暗号化されたファイルの操作を行う事ができます。



10. 初回設定ウィザードが終了しましたら
[終了]をクリックして下さい。




11. インストールが終了しました。コンピューターを再起動することでセットアップが完了します。[今すぐ再起動します。]を選択して[終了]をクリックしてください。



アンインストール方法

操作方法

1. アンインストールを行うには、3種類の方法があります。

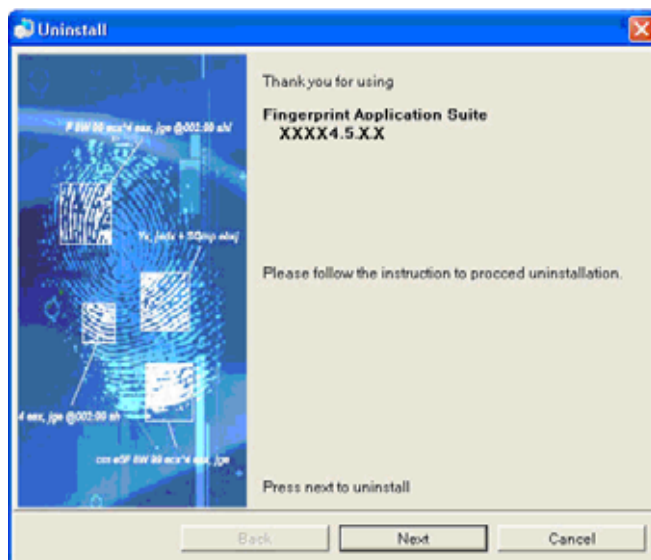
- a. “スタート” → “すべてのプログラム” → “Fingerprint Application Suite” → “XXXX” → “システム” → “アンインストール” をクリックして下さい。
- b. タスクトレイでの  アイコン をマウスの左/右ボタンをクリックして → “システム” → “アンインストール” をクリックして下さい。
- c. “コントロールパネル” を開いて “プログラムの追加と削除” を実行し、 “XXXX” を選択し [変更と削除] をクリックして下さい。



2. アンインストール前に本人確認を行います。指紋を登録して、又はユーザー名とパスワードを入力してください。本人確認された後、アンインストールを実行する。



3. アンインストールの画面が現れる。



4. [アンインストール実行]と[全ユーザーデータを削除します。]の2種類の選択肢が表示されます。

[アンインストール実行]を選択：ソフトウェアのみアンインストールし、ユーザーデータは残します。同じユーザーが再度ソフトウェアを使用する場合に[バックアップデータを使用する]を選択する事で、以前バックアップしておいたデータを使用することができます。（詳しくは“インストール”を参照して下さい）



[全ユーザーデータを削除します。]：ソフトウェア及びユーザーデータを削除します。次回再インストール時にバックアップデータ以外のデータを使用することはできません。

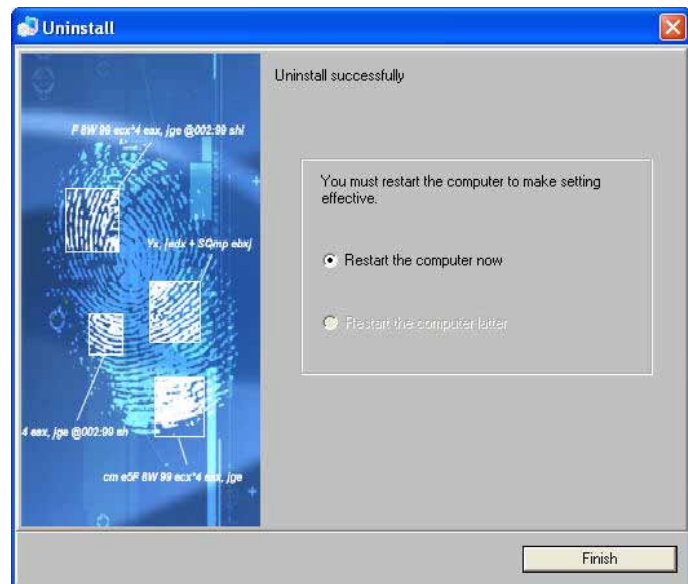
全てのユーザーデータをアンインストール：プログラム及びユーザーデータを削除します。再インストール時、現ユーザーのバックアップファイルを復元する事以外に、暗号化ファイルの閲覧・編集を行う事ができません。

注意

アンインストール前、ユーザーバックアップデータを削除します。現在のユーザーデータフォルダをバックアップしてください。バックアップデータが無い場合は、保護ファイルを復号化できません。

5. アンインストールが終了しました。

コンピューターを再起動することでセットアップが完了します。[今すぐ再起動します。]を選択して[終了]をクリックしてください。



使用説明

はじめに

操作方法

1. インストールを終了しコンピューターを再起動することでインストールが完了し、指紋認証機能を使用することができます。

以下はシステム設定、バックアップ、復元、シークレットキー、ファイル保護、アプリケーション保護、指紋認証ホットキー、ファイル保護検索及びタスクトレイの操作方法を説明します。


注意

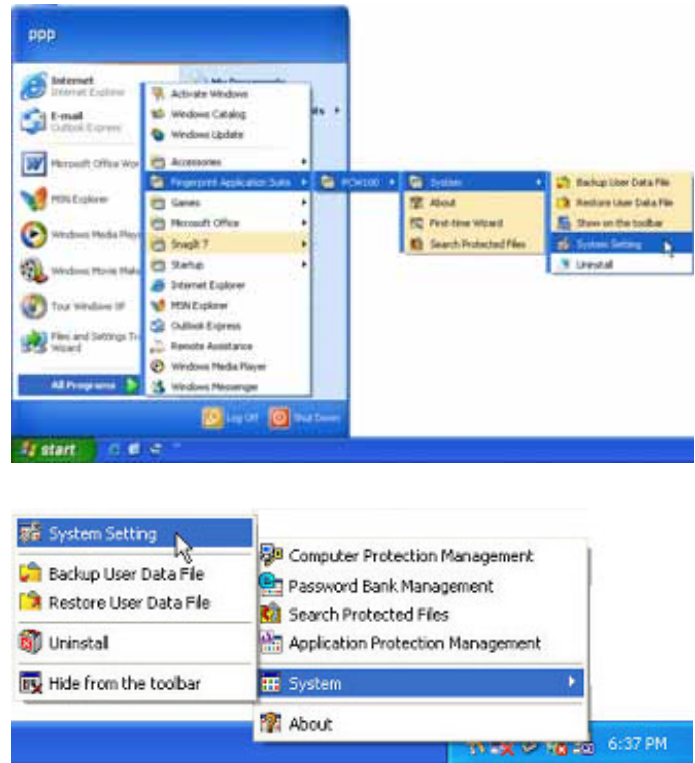
もし、あなたがインストールをしたユーザーと同一人物でない場合、初回設定ウィザードを完了して下さい。初回設定ウィザードにて新規指紋登録完了後、各種機能を使用することができます。(インストールの 5-10 を参照してください)

システム設定

システム設定について：指紋管理、一般設定、指紋管理、コンピューター保護管理、指紋認証ショートカット、シークレットキー管理、アプリケーション保護管理機能があります。

操作説明

1. システム設定を行うには2種類の方法があります。
 - a. “スタート” → “すべてのプログラム” → “Finger Application Suite” → “XXXX” → “システム” → “システム設定” をクリックしてください。
 - b. タスクトレイでの  アイコン をマウスの左/右ボタンをクリックして、“システム” → “システム設定” をクリックしてください。



指紋管理

指紋管理設定では、新規指紋データ登録や指紋データの削除を行うことができます。

指紋データの登録


操作方法

マウスのカーソルを指先へ合わせると、選択した指が緑色になります。選択した指と同じ指を使用し、指紋登録を行ってください（詳しくは”指紋登録方法”を参照して下さい）。最適な指紋の特徴を読取った後、指紋データの登録が完了する。

指紋データの登録が10本の指すべてを連続して登録することができます。




指紋データの削除

1. マウスのカーソルを削除したい指（指紋データ登録済）上へあわせて、アイコンが現れて、そして、当該指をクリックし、指紋データを削除できる。連続で削除することも可能ですが、少なくとも1個の指紋データを残しておいてください。



注意

1. コンピューターのセキュリティ確保のため、少なくとも一つの指紋データを登録することが必要です。


2. 画面にある“指紋取読みの教学”  ボタンをクリックして指紋取読み装置の使い方を学べます。

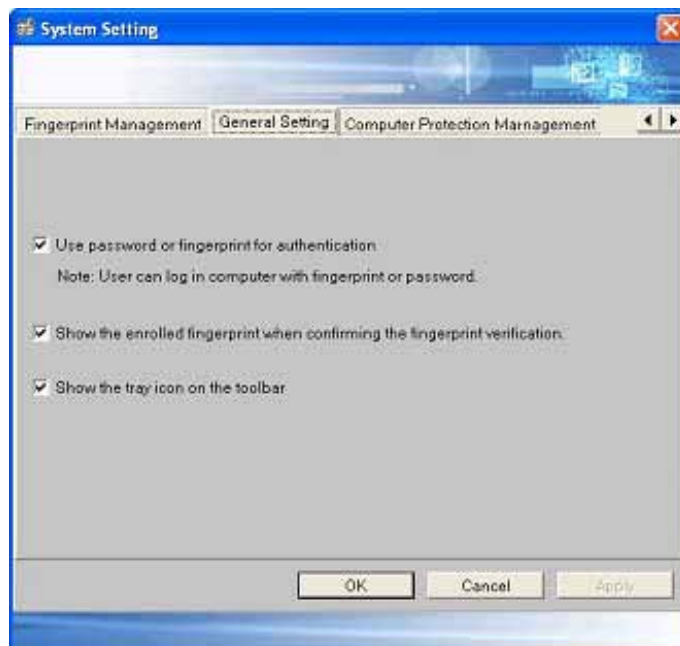
一般設定

一般設定の機能：パスワードによる本人確認、指紋認証時に使用する指紋データ及びタスクトレイについて

操作方法：

1. 一般設定画面で設定できる設定説明：

- パスワードによる本人確認：この設定を有効にすると、コンピュータのログイン時に指紋とパスワードの両方で認証を行う事ができます。ただし、ログイン後、指紋認証機能を利用する時には、パスワードは使用できず 指紋のみの本人確認となります。
- 本人確認時に使用する登録済指紋データ：この設定を有効にすると、本人確認画面上で読み込まれた指紋データが登録されているものであるかどうかを表示することができます。
- タスクトレイへの表示：この設定を有効にすると、画面右下のタスクトレイ内へ  アイコン表示されます。



注意

もし、パスワードによる本人確認を選択しなかった場合、本人確認時には指紋認証しかできないため、ログイン時、入力欄は入力不可能になります。

コンピューター保護管理

コンピューター保護管理は、ユーザーがコンピューターのそばを離れる時、勝手に使用されないようにする機能です。コンピューター保護管理機能には 1.ログイン保護 2.ロック保護 3.スクリーンセーバー保護の 3 種類があります。（詳しくは“コンピューター保護”を参照して下さい。）

操作方法

“コンピューターアカウントパスワード”欄内にコンピューターにログインする時に使用するパスワードを入力してください。パスワード入力ミスを無くす為に”パスワードの確認”に再度ログインパスワードを入力してください。もし、入力したパスワードとコンピュータログイン時のパスワードが一致しない場合はコンピューター保護を行うことができません。



ID／パスワード管理

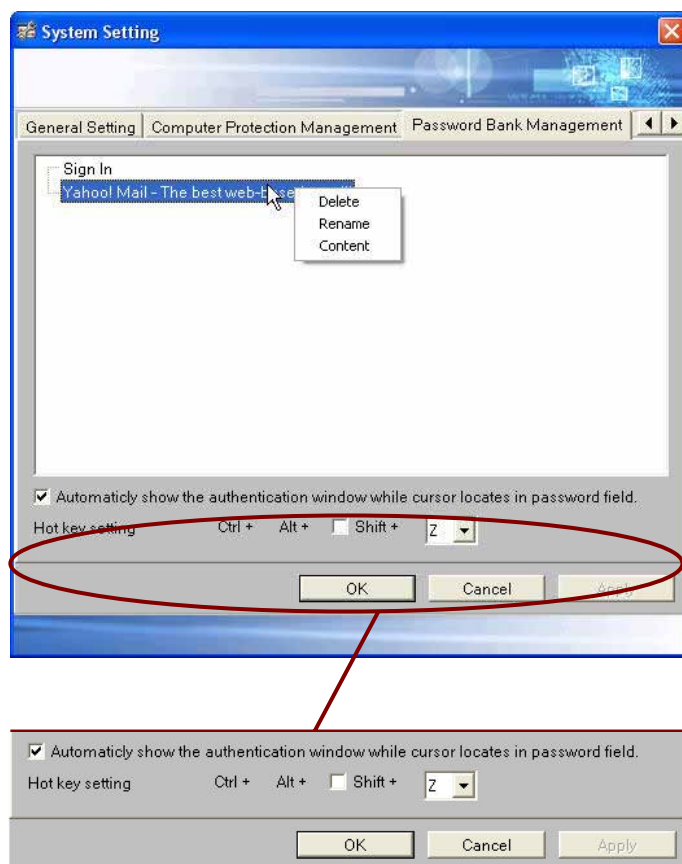
ID／パスワード管理では、ID／パスワードデータの管理及び編集、ホットキー設定を行う事ができます。パスワードバンクではアプリケーションやウェブページの ID やパスワードを管理する事ができます。（詳しくは“パスワードバンク”を参照して下さい）

操作方法

- 1.ID／パスワード管理：パスワード削除、名前の変更及びパスワードの編集を行うことができます。管理項目名の上でマウスを左/右クリックするとメニューリストが現れます。【削除】【名前の変更】【内容】の中から目的の処理を選択してください。

該当ページでホットキー（Ctrl+Alt+Z）を押すと設定した電子メールアドレスやパスワードが自動で入力されます。

（ Ctrl+Alt+Z キーボードの組合せは選択変更できます）



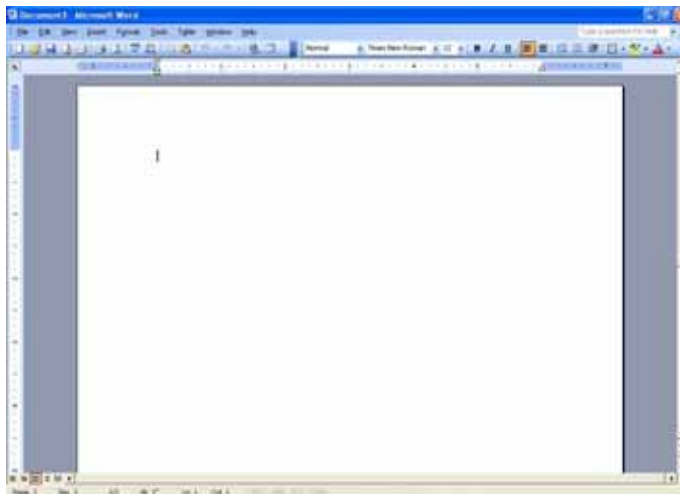
アプリケーション保護管理


アプリケーション保護管理を使用すると、他の人に使用されたくないアプリケーションを保護することができます。

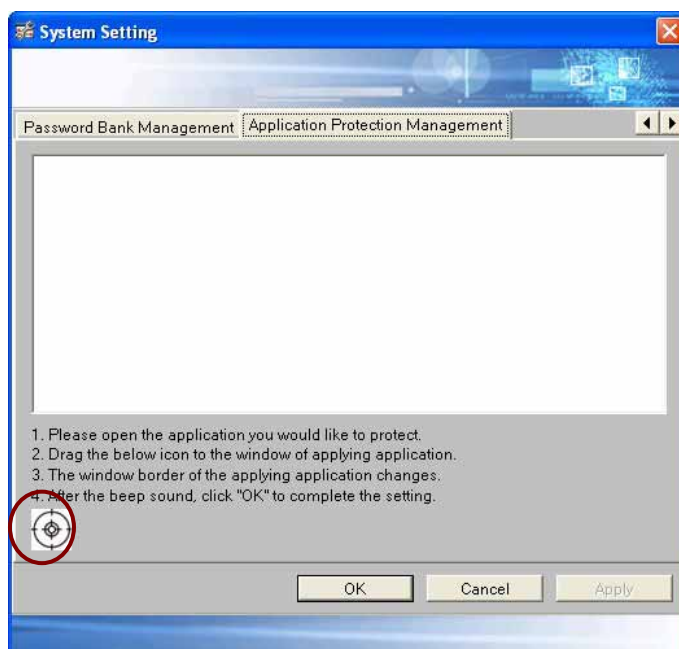
アプリケーション保護の設定


操作方法

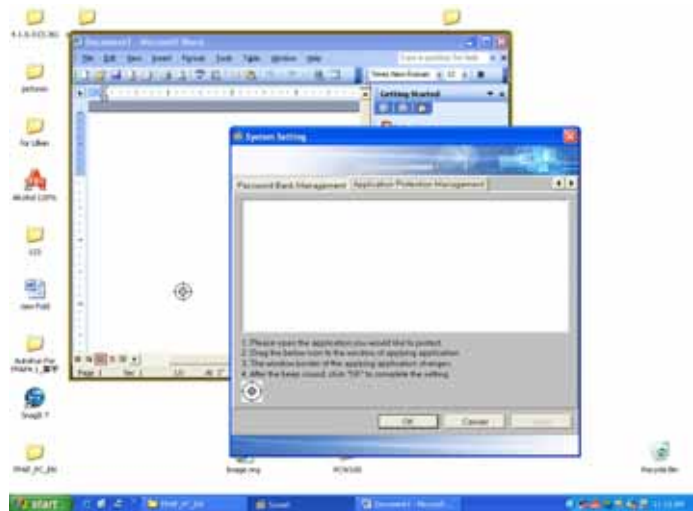
1. まず、保護したいアプリケーションを開きます。（例：Microsoft® Media Player）



2. マウスのカーソルを  アイコンの上に合わせます。



3.アイコンをアプリケーション保護設定
窓へドラッグします。



4.マウスを放すとコンピューターからビー
ブ音が流れ、保護したいアプリケーションが
表示されますので選択して、[OK]をクリック
して下さい。



アプリケーション保護の解除、削除

ここではアプリケーション保護管理解除、保護設定、保護設定削除を行います。

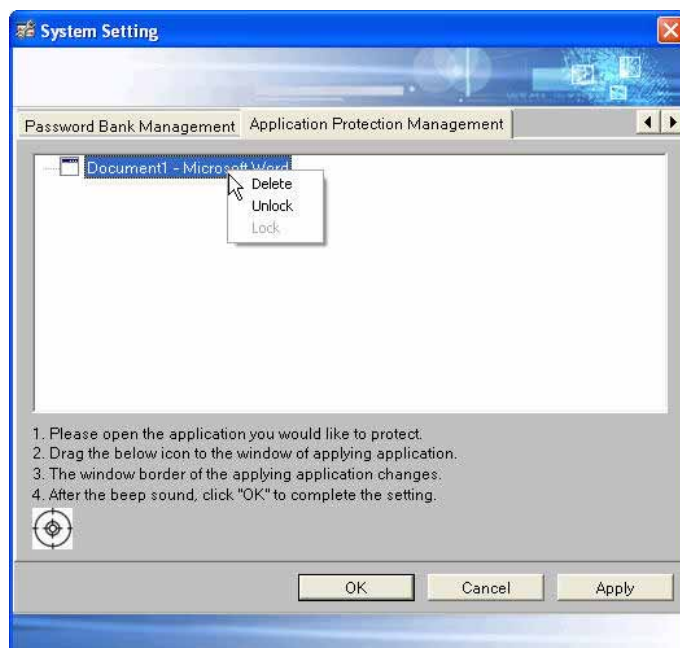
操作方法

1. アプリケーション管理にマウスのカーソルを合わせ右クリックすると以下のメニューが現れます。目的の処理を選択してください。

削除：保護設定を削除します。リストから完全に削除します。

保護設定解除：アプリケーション保護設定を解除します。（この設定はリストの中には残ります）

保護設定：リスト内にある以前解除した保護設定を有効にします。



バックアップ

前のユーザーデータファイルをバックアップする。ユーザーデータファイルをバックアップする目的は、本プログラムを再インストールする場合、再び指紋データの登録をする必要がなくて、元の暗号化したファイルを開くことができる。

操作方法

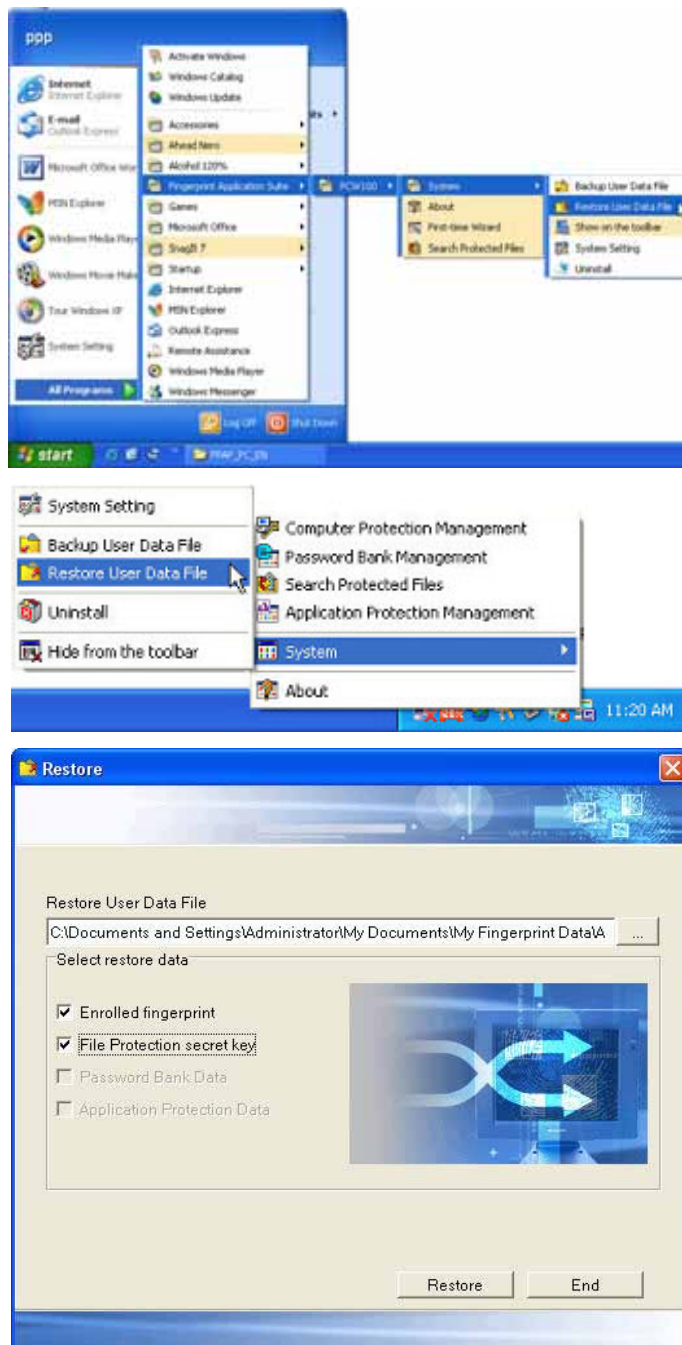
1. バックアップの位置を指定して、バックアップの資料は少なくとも登録した指紋データを含んで、他のエクスポート項目も自由に使われて、確認した後【バックアップ】をクリックしてもよいです。



復元

以前バックアップしたデータを再度利用することができます。この際、再度指紋認証を行わず、各機能を使用できます。

1. “スタート” → “すべてのプログラム” → “Finger Application Suite” → “XXXX” → “システム” → “ユーザーデータの復元”を実行します。



パスワードバンク

ID/パスワードを一括管理し、ウェブ上の様々なサイトやアプリケーションで利用できます。（以下の説明はウェブページでの例示及びネットワークのディスク機での例示である）

パスワードバンクの設定

ウェブの設定

操作方法

1. まず、ユーザーはウェブページのパスワードの入力欄に正しい指紋或いはデバイスのパスワードを入力して、送信ボタンをクリックして、この時本人確認表示の画面が現れて、この指紋でこのアカウント、パスワードを設定するかしないかという画面が出てくる。「はい」をクリックしたら、直接このウェブページにログインして、いかなる資料をパスワードバンクに設定させない。



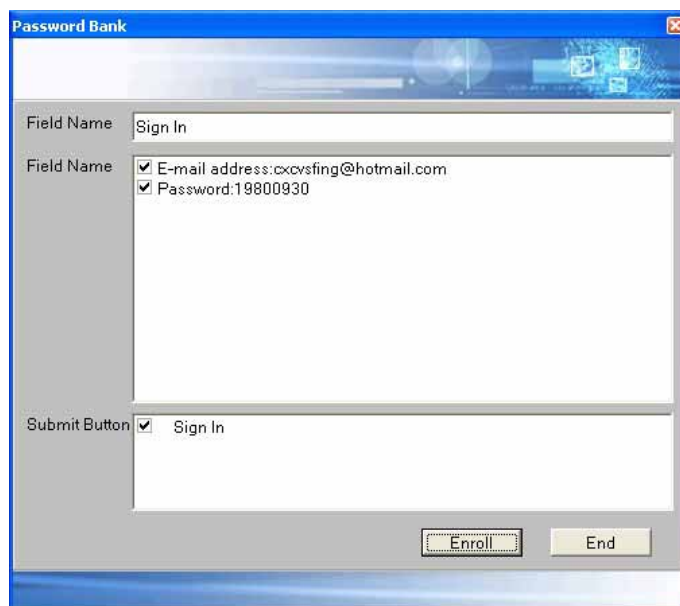
2. 「はい」をクリックしたら、本人確認表示の画面が現れて、正しい指紋或いはデバイスのパスワードを入力した後、パスワードバンクの画面が現れて、登録されたウェブページの名称及びその内容をリストして、「登録」をクリックして保存成功の提示が現れて、その時、このデータがユーザーのパスワードバンクに保存された。



3. 今度指紋で登録したウェブページにログインしたい場合、マウスのカーソルをそのウェブページのパスワードの入力欄に移動させて、本人確認画面が自動的に現れて、正しい指紋或いはデバイスのパスワードを入力した後、自動的に当該ウェブページにログインできる。



4. 本人確認後、下記のような設定画面がポップアップする。ユーザーは保存する ID/パスワードを選択できる(チェックボックスをクリックすることで選択取り又は消しが可能です)



Field Name Sign In

Field Name ☒ E-mail address: cxcvsting@hotmail.com
☒ Password: 19800930

Submit Button ☒ Sign In

Enroll End

注意

1. ソフトウェア或いはネットワークはこの機能を支援しない。
2. 提示画面をポップアップさせないように“今度は提示しない”をクリックしてもよいです。

他のパスワードバンクの設定方法

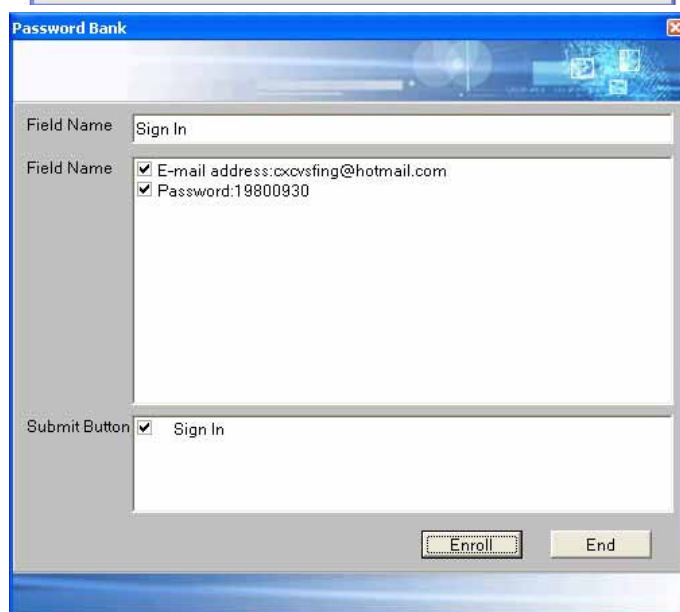
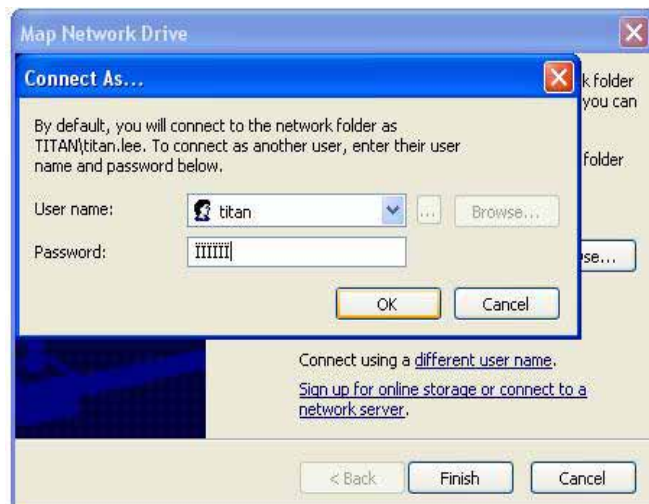
一部のソフトウェアはこの機能を支援しないため、設定したホットキーを使ってください。（以下の説明はネットワークのディスク機での例示である）

操作方法

1. パスワードの入力欄に正しいユーザ名、パスワードを入力して、設定したホットキー（既定は Ctrl+Alt+Z）を押した後、本人確認の画面がポップアップする（ユーザーがホットキーを設定できて、ホットキーの設定方法は取扱説明書の“パスワード管理”を参照してください。）

2. 本人確認後、下記のような設定画面が現れる。ユーザーは保存する ID/パスワードを選択できる。（チェックボックスをクリックすることで選択取り又は消しが可能です）

3. 同じなサーバに入る時、ただユーザー名を入力して、ホットキーを押して、指紋認証を確認した後、登録を完了する。



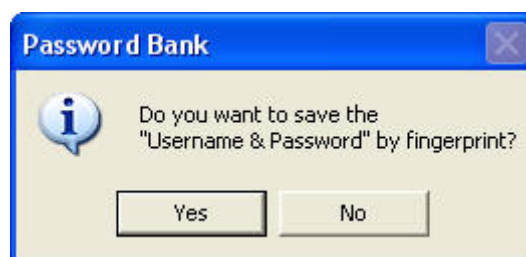
注意

システムは異なっているウェブのユーザー及びパスワードを認証できて、ウェブををえる時、再びアカウント及びパスワードを登録する可能性がある。

パスワードバンクの機能

操作方法

1. マウスのカーソルをパスワードの入力欄に移動させる時、本人確認画面がポップアウトする。(もし他のアカウント及びパスワードを設定すれば、再び「キャンセル」ボタンをクリックして、パスワードの設定を繰り返して下さい) 本人確認を行った後、自動的に保存されたアカウント及びパスワードで登録できます。



2. もし、同じなサイトで2個以上のアカウント (ID) 及びパスワードデータが存在する場合に、マウスのカーソルをパスワードの入力欄に移動させるならば、パスワードリスクがポップアップされて、ログインしたいアカウント (ID) 及びパスワードを選択した後、認証確認を行う。



ファイル保護

本章節は：ファイルの保護、保護の解除及び編集保護のファイルを含む。デスクトップあるいは書類のマネージャーに関わらずの中で、あなたは全て書類の保護を行うことができる。(デスクトップに置かれるファイルを例にすると説明する。)

ファイルの暗号化

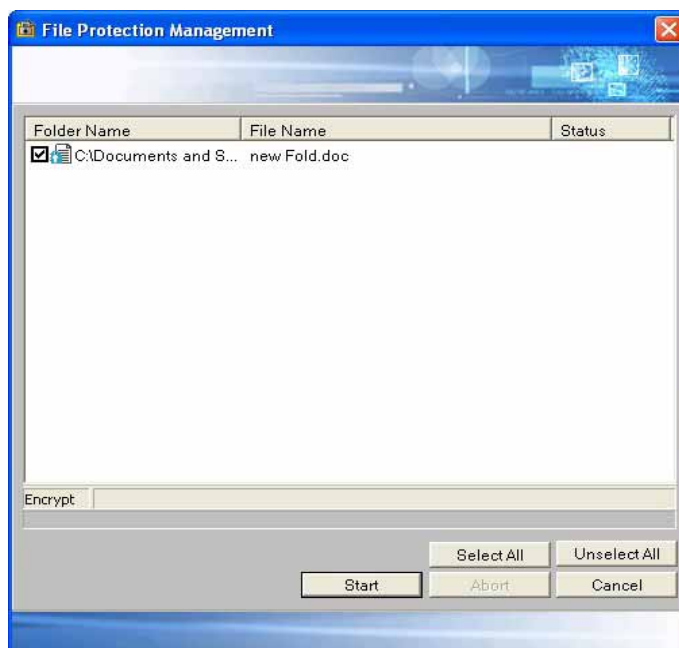
ファイルを暗号化します。暗号化されたファイルは本人確認無しでは閲覧、編集、削除することができません。

操作方法

- 1.暗号化したいファイルを右クリックして、メニューリストから[ファイルの暗号化]を選択します



2. 本人確認を行うと、[ファイル保護管理]画面が現れますので、[はじめる]をクリックするとファイル暗号化が行われます。



注意

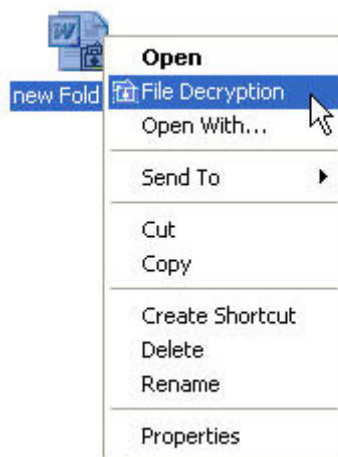
直接ファイルフォルダ内のファイルに対して、ファイルの保護或いは保護の解除を行うことができない。唯、ファイルフォルダに右クリックして“ファイル保護”或いは“ファイル保護の解除”を選択してもよいです。

ファイルの復号化

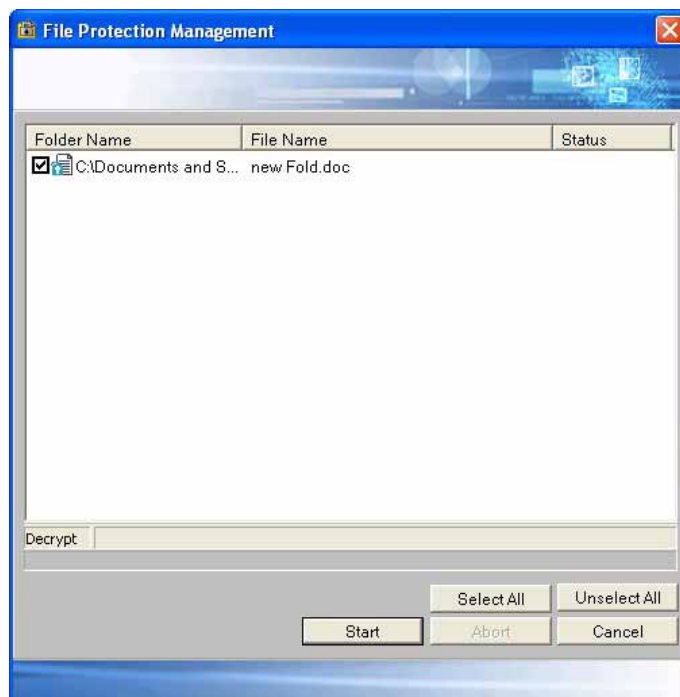
暗号化されたファイルを復号化します。復号化することで、だれでもファイル閲覧、編集、削除をすることができます。

操作方法

既に暗号化されているファイルを右クリックして、メニューリストから[ファイルの復号化]を選択します。



本人確認画面が表示されますので、本人確認後ファイルの復号化が完了します。



暗号化ファイルの編集

操作方法

1. 暗号化されたファイルをダブルクリックすると本人確認が始まります。本人確認後ファイルの編集を行うことができます。

コンピューター保護

コンピューター保護を使用することで、起動ログイン時、他の人にログインされる事態を防ぎます。コンピューター保護にはログイン保護、コンピューターロック、スクリーンセーバー保護の3種類があります。

ログイン保護

操作方法

1. ユーザーが個人のコンピューターを使用する時、必ず本人確認を行っていただきます。指紋デバイスを使用してユーザー名とパスワードを登録します。これにより、起動ログイン時、本人確認を行うことでログインできるようになります。

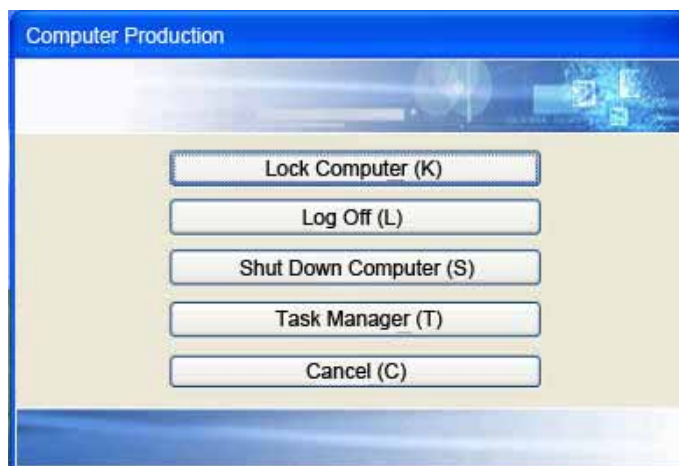


ロック保護

ロック保護を使用すると、コンピューターから離れる時、他の人がコンピューターを利用できないようにコンピューターをロックすることができます。

操作方法

1. Ctrl+Alt+Del を同時に押すと[コンピューター保護]が表示されますのでクリックするとコンピューターがロックされ、他の人がコンピュータを使用できないようになります。



2. 引き続きコンピューターを使用したい場合は本人確認を行ってください。ロックが解除されるとコンピューターが使用できます。

以下は Windows® で使用される用語です。：

ログイン：ユーザーが自身のアカウントを使用します。

シャットダウン：コンピューターの電源を切ります。

タスクマネージャー：現在コンピューター内で使用されているプログラムの監視と中止処理を行います。

キャンセル：現在の処理を取り消す場合や、処理をやめます。



注意

コンピューターの保護設定を行ってから、コンピューターを再起動することでセットアップが完了します。

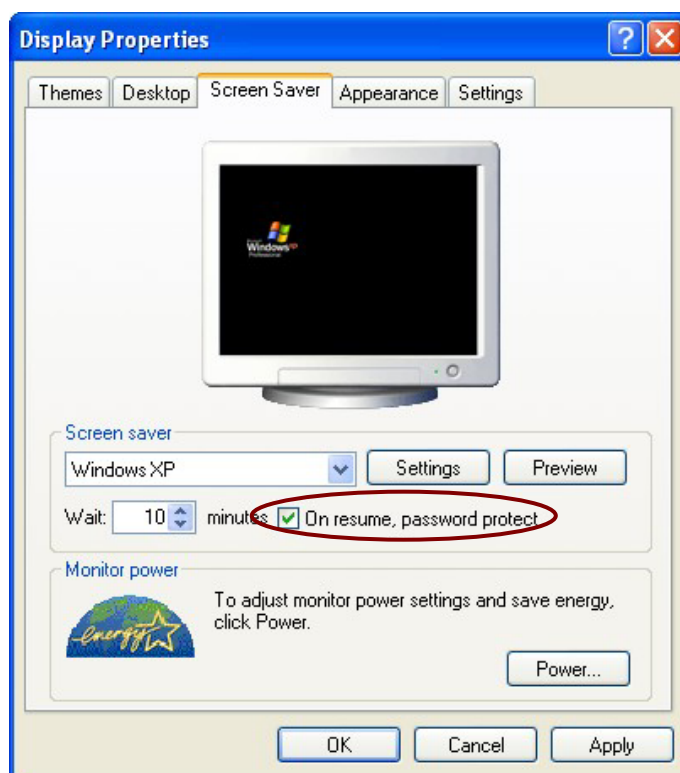
スクリーンセーバー保護

スクリーンセーバー保護を使用すると、本人確認後ユーザーのコンピュータが勝手に使用されることを防ぎます。

スクリーンセーバー保護の設定

操作方法

1. “コントロールパネル” → “画面”
→ “スクリーンセーバー” を選択します。
(デスクトップ上で右クリックをし
“プロパティ” → “スクリーンセーバー”
を選択することもできます)そして、“パ
スワードによる保護”を選択し、本人確認
設定を行います。



スクリーンセーバー保護の機能

操作方法

1. スクリーンセーバー保護設定後、キーボードやマウスを動かすと本人確認要求が表示されます。本人確認後、スクリーンセーバー保護が解除され、スクリーンセーバー起動前の状態でコンピュータを使用することができます。



アプリケーションの保護

操作方法

1. 先にアプリケーションの保護を設定してください（詳しくは取扱説明書の“アプリケーションの保護管理”を参照してください）。保護されたアプリケーションを実行する場合、本人認証を確認しないと当該アプリケーションを実行できない。




保護ファイルの検索

保護ファイル検索を使用すると、コンピューター内にある暗号化されたファイルを検索することができます。

操作方法

1. 保護ファイル検索を使用するには以下の2種類の方法があります。

- a. “スタート” → “すべてのプログラム” → “Finger Application Suite” → “XXXX” → “保護ファイル検索” を選択し、保護ファイル検索を実行します。
- b. タスクトレイのアイコンの上で左/右クリックをし、保護ファイル検索を選択し、保護ファイル検索を実行します。

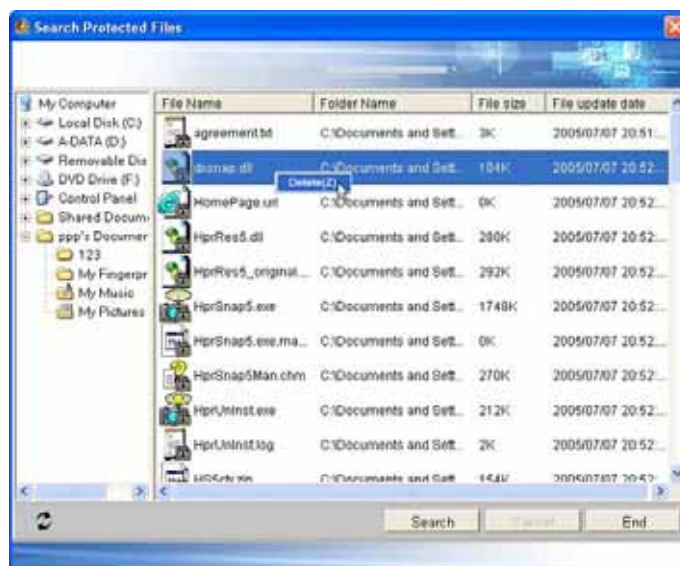


2. 保護ファイル検索の実行：まず、左側のチェックボックスで検索するハードディスクを選択します。次に[検索]をクリックすると暗号化ファイル検索を実行します。（詳しくは“ファイル保護”を参照して下さい）



3. 暗号化されたファイルリストが表示されます。削除したい場合は、該当ファイル名を右クリックして[削除]を選択します。


目的のファイルを開く場合はファイル名をクリックして下さい（本人確認が必要です）
再度検索を行う場合は、ハードディスクを選択して[検索]をクリックしてください。終了する場合は[終了]をクリックして下さい。



タスクトレイ設定

タスクトレイ設定を使用することで右下のタスクトレイに  アイコン表示/非表示することができます。

操作方法

1. 以下の3種類の方法で実行することができます。
 - a. “スタート” → “すべてのプログラム” → “Finger Application Suite” → “XXXX” → “システム” → “タスクトレイに表示” から実行します。
 - b. タスクトレイのアイコン  の上で左/右クリックし、システム → “タスクトレイに表示しない” の設定から実行します。
 - c. システム設定の一般設定から実行します。

注意

もし、タスクトレイを表示しない設定をしている場合、“スタート” → “すべてのプログラム” → “Finger Application Suite” → “XXXX” → “システム” → “タスクトレイに表示” から変更することができます。

使用上の注意及び Q&A

1. なぜ、指紋登録に失敗する事があるのでしょうか？

答え：指紋登録時には入力毎に指紋の特徴を読み取ります。これらの指紋特徴は入力毎に算出されるもので、より特徴を読み取る事ができた場合に登録が完了し、安全性が保たれます。

2. 指紋認証により暗号化したファイルが削除される可能性はありますか？

答え：指紋により暗号化されたファイルは保護されているため、その内容は本人確認を経ない場合、閲覧・編集・削除することはできません。

3. 暗号化されたファイルが指紋認証で開く事ができないのはなぜでしょうか？

答え：この状況が発生した原因については、指紋登録したとき、はっきりとした指の特徴が読み取られていないのか、または今ご利用する指紋データが使用できない状況かという二つの原因は指紋認証の結果に影響される。したがって、登録時2箇所以上の指紋を登録する事で、1本の認識が行えない場合も残りの指紋により本人確認が行われる事をお勧めします。

4. なぜ、拡張子は exe, ini, dll (*.exe, *.ini, *.dll)などのファイルが保護されませんか？

答え：拡張子は exe, ini, dll (*.exe, *.ini, *.dll)などのファイルが保護されると、プログラムは正常に動作できません。このような状態を避けるため、当プログラムがこんな種類のファイルに対する保護機能が制限されます。こんな種類のファイルを保護する場合、アプリケーション保護機能を行うことをお勧めします。

5. ユーザーデータファイルにアクセスするとき、パスワードで本人確認ができないのは何故でしょうか？

答え：ユーザーデータファイルには機密データが含まれているため、指紋認証されたときのみユーザーデータファイルにアクセスすることができます。これによって個人データはより確実に保護され、権限のないユーザーからのアクセスを防止できます。

6. なぜあるファイルフォルダ（例えば：C:\Windows）のファイルは、ファイルの保護を行うことができないの？

答え：このようなファイルフォルダ内のファイルは一般的にシステムファイルがある。もし、ファイル保護で設定されたら、コンピューターをスタートさせないこと及び他のプログラムをうまく実行させないことをもたらすかもしれない。そのため、あなたはシステムのファイルフォルダ（例えば、C:\Windows\）及びあらかじめインストールされたアプリケーションのファイルフォルダ（例えば、C:\Windows\）内のファイルに対してファイル保護を行うことができません。そのため、同じな原因に従い、そのルート・ディレクトリ自身（C:\及 D:\）もファイル保護を行ってはいけません。

7. なぜスタートされたコンピュータの起動画面は、指のデータがもう登録されたことを提示できない。？

答え：当該ソフトウェアは多数のユーザーを支援するため、コンピュータがスタートされた指紋認証の登録画面に提示できない。

8. 何故バックアップされた使用者のデータを保存した後、登録した指紋の数量はファイルフォルダ内より多いの？

答え：使用者が登録した指紋を変更する時に生むかもしれない問題を免れるため、使用者のバックアップしたファイルを保存する時、本ソフトウェアは“付加”の構造で指紋データの保存を行う。つまり、もし右手の人差し指の指紋を登録するならば、バックアップしたファイルに右手の人差し指のデータがなくて、バックアップしたファイルを保存した後、右手の人差し指の指紋を保留する。

9. 何故英文の作業環境に、中国語名称のファイルフォルダ或いはファイルにマウスの右ボタンをクリックして、暗号化されたファイルを解除する機能のオプションを見ることができないの？

答え：これは作業言語にかかる相容性の関係で、Microsoft® Windows も同様な問題があつて、そのため、よく異なった言語の作業環境に行っていれば、ファイルフォルダ或いはファイルの名称を英文で命名するように提案して、すぐこの種類の問題を解決することができる。

当社製品をご利用いただきましてまことにありがとうございます。